

ぽかぽか縁側日記

このコーナーは、皆さんのページです。川柳、エッセー、おもしろ話、困った話などなど、どしどしお寄せください。

三下り半

え、古文書、あのミミズのはつたような字読むの。はいはい、でもほんとにミミズにはわたした字なんて誰かみたことあるかな。まさかね。ではそのまさかの話。

時は江戸、大工の甚六、超いばりやなんだが、しつかりものの女房フネにどうも頭が上まらない。なんとか亭主の威光なるものを示さんと常々考えていた。思案の末、三下り半をつきつけたら流行り言葉でビビるだろうと思いつく。そこでひらめいたのがミミズをはわせて字らしくする大迷

案。さつそく、ミミズに墨をどつぷりつけて紙にはわせてみるとこれがどうじゃ、まことの字らしく。ときどきはしでつついてみると、あばれてますますいい感じ。それを三行と半分におさめ爪印をついたらりつぱな？三下り半ができあがった。

そこでフネをよびつけ、それをつきつけた。びっくりし泣いてあやまるか、と思いきや「ああそうですか、どうもお世話になりました」とさつさと家を出てしまった。

あわてて止めようとしたがもう遅い。すっかり落ち込んで頭をかかえて寝込んでしまつた。

二日程したら庄屋さんから呼び出しがきた。事情を知っている庄屋さん、甚六をこうからかいます。

「これ甚六、ここにお前が出したという離縁状があるが間違いないな」

「はい、いいえ、それがその」
「なんだはつきりせん。それでここに離縁の条件としてこれからの扶持（ふち＝給料）はずつと半分女房フネに渡すとあるがこれでよいな」

「ひえつ、庄屋さん、そ、それは間違いでございます。どうかどうかお取下げを」
「いやいや爪印もあるからに

は簡単にはいかん」

「い、いや、そ、それは実は私の書いたものではございません」

「ほう、さようか、では誰が書いたものだ」

「そ、それはミミズでございます」



「なんと、ミミズがのう。この見事な書体、さうとう学のあるミミズじやのう。しかし、書かせたのはお主だろう」

「は、いやその、あ、わかりました。それは女房のフネが... 庄屋さん、この前フネが甘酒をもつて庭でなにかこそそそやってました」

「それがどうした」

「それはきつとミミズに甘酒を飲ませて、そう書くよう仕込んだに違いありません」



編集後記

夫の横車を止めるには何より妻が賢くならないと、というミミズ談義でした。（食休）

先の衆議院選挙では政権交代がなされ、同院の女性議員数は54人となり、全議席の11%に達しました。少子化対策・男女共同参画担当大臣には、福島みずほさんが就任され、男女共同参画社会の実現に向けた新たな施策の展開が期待されます。私たちもまた、見守るだけでなく、さまざまな視点から情報発信していきたいと考えています。

今回は子育てで真っ最中のご夫婦を取材しました。お互いに助け合う姿勢がさわやかでした。（簡）



平成21・22年度のいきいき通信ボランティア編集委員の皆さん 前列左から菊地朱美さん、簡智恵子さん、泉兼男さん、後列左から大泉辰紀さん、今野敦子さん

さんかく川柳

「社会人 目指して男女 靴を履き」

「妻財布 夫子を抱き ショッピング」

「共和音 汗と涙を 経た夫婦」

盛町 嶋村良子

市内川柳会会員の川柳です。皆さんも男女の役割分担等のユーモラスな川柳をお寄せください。